

A large, faint watermark of the 'HOF' logo is centered in the background of the slide. The 'O' is a globe icon.

5.Honda YES獎勵賞

「公益法人報 2009年9月号」巻頭言

「日メコン交流年 川の流域で」 (財)本田財団 常務理事 原田洋一

1961年、当時の若き理工系研究者を支援すべく財団法人「作行会」が産声を上げた。同財団が提供する奨学金は、用途を問わず、報告書は不要、将来の進路は自由、返還も不要だった。延べ1,735名を支援した後の1983年、財団の解散記念謝恩会で、匿名だった出資者が明かされた。Honda創業者の本田宗一郎と藤沢武夫だった。両氏は創業から13年後、会社の株式上場や配当によって得た創業者利益を還元すべく、私財を投じて作行会を創り、日本の未来を築く若い科学技術者たちに夢を託した。

先日お会いした作行会受給者で宇宙飛行士の毛利衛氏は、研究に没頭する一方、生活が楽でない時代に受けた支援に対し謝辞を述べられていた。多くの作行会受給者は今、「科学技術離れする現代日本の若者に対して、自分たちが貢献できることはないか」と思案されている。

2006年、本田財団は、創立30周年を期に、現在の若き理工系学生を支援すべく、また「21世紀版作行会」を標榜し、「Honda Young Engineer and Scientist's Award」(YES奨励賞)をベトナムで立ち上げた。翌07年はインド、昨08年はカンボジアとラオスへも活動の輪を広げた。今後事情が許せばミャンマーでも展開したい。同賞では、現地での奨学金の他、日本留学を奨励すべく、留学受入れ先の発掘から、宿泊場所探し、成田への送迎に加えて、来日決定時には追加の奨学金も提供する。

。 昨年のクリスマス、プノンペンで開いた奨励賞の授与式では、同国の教育大臣が、400名近い学生に向かって、内戦禍を乗り越えて進む国の未来を鼓舞した。経済的には恵まれないが、夢ある学生たちは瞳を輝かせた。

奨励賞の現在までの受給者総数は51名に過ぎない。それでも、私たち主催者は、それらの国々と日本を結ぶ多くの橋の一つになるとともに、彼ら、彼女らの中から、将来それらの国々をリードするような科学者が出ることを期待し、活動を続けていく。